

| 平成 30 年度第 4 回奈良市プロポーザル採否審査会会議録 | | | |
|---|---|--|-------------|
| 開催日時 | 平成 30 年 9 月 11 日 (火) 午前 9 時 00 分から 9 時 40 分まで | | |
| 開催場所 | 奈良市役所 中央棟 5 階 庁議室 | | |
| 出席者 | 委員長 | 向井副市長 | |
| | 委員 | 津山副市長 萬谷法令遵守監察監 中西会計契約部長 川尻市民生活部長 奥田環境部長 梅森観光経済部長 岡本都市整備部長 杉野建設部長 尾崎総務部長 | |
| | 事務局 | 契約課長、契約課長補佐、契約課契約係長 | |
| 開催形態 | 公開 (傍聴人 2 人) | 担当課 | 教育総務部 教育総務課 |
| 議題 又は 案件 | 1 奈良市学校施設長寿命化計画策定業務委託 | | |
| 決定又は 取り纏め 事項 | 1 採用 | | |
| 議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等 | | | |
| <p>担当課 本業務を取り巻く背景として、全国的に学校施設の老朽化対策が課題となっており、本市においても所管の教育施設のほとんどが築後 30～40 年経過しており、同様の課題を抱えている状況がございます。そこで、今後の学校施設の長寿命化を計画的にするため奈良市学校施設の長寿命化計画の策定業務委託をプロポーザル方式で実施したいと考えております。計画策定の目的は、中長期的なトータルコストの縮減、予算の平準化、学校施設に求められる機能・性能を確保して長寿命化するものです。業務の内容は、学校施設の現状調査、その調査結果に基づく長寿命化の計画の策定となっております。プロポーザル方式で業者の選定を行いたい理由は調査業務と計画策定業務のそれぞれに高度の専門性が要求されるので、単なる価格のみの競争入札ではなく、各業者の持つノウハウを活かすことのできるプロポーザル方式で行いたいと考えております。</p> <p>委員長 はい、学校施設長寿命化計画策定業務ですが、何か質問はありますか。</p> <p>委員 これは、何を委託するのですか。再編の話はどう関わってくるのですか。</p> <p>担当課 この調査業務で根拠データを収集し、校舎ごと対応年数、児童・生徒数の推移、地域ごとの現状等のデータを基に学校規模の適正化についても研究してもらおうと考えています。本日提案させていただいているのは施設活用の側面ですが、学校規模適正化は施設の活用を含めて、児童数の推移等のいわゆる教育的側面を捉えて考えていかなくてはならない部分だと思うので、現状として何かを盛り込まないといけないと思います。</p> <p>委員 基本でどこまで決めて、これを実施するのかが釈然としません。何年先を見越</p> | | | |

して行くかですよね。長寿命化だけに絞った計画にしてもらうのか、今後の校舎をどうしていくのか踏み込んだような計画にしてもらうか、どうなのですか。

委員 長寿命化で工事をしていくにあたっての計画ですよね。適正化計画とは離して長寿命化に優先をした計画の方がよいのではないですか。

委員長 業務目的と業務内容6番の「長寿命化計画の継続的運用方針の整備」が少し違うと思います。この業務目的だけ見るとハード面を調べて優先順位を付ける。これだけでも大変な業務ですよね。その上に、学校規模適正化の検討を提案するのは非常に難しいと思います。どういった業者が想定されますか。

担当課 コンサルタントや調査会社がコンサルタントと組むことが多いです。

委員長 プロポーザルにする意味は何ですか。学校規模の適正化を提案してもらうのですか。

担当課 奈良市の地域特性から、検討する主要課題はどういったことで、その課題にどうアプローチをして、どういった手法を取るのかを提案いただきたいと思っています。それと業者の実績と技術者の経験等も見たいと思っています。

委員長 学校規模適正化の方の提案をしてもらうのですか。

担当課 長寿命化計画の調査と計画策定までと考えています。

委員 学校規模適正化を入れたらどのようにそれを反映せるかを提案してもらいたいということですよ。その辺を仕様書に入れこむのが難しく、それを業者に提案してもらうので、普通の入札には適さないということですね。

担当課 そうです。

委員長 通常は調査をして優先順位を決めると思います。そこに学校規模適正化の統廃合の計画はどのように影響するのですか。

担当課 統廃合と校舎の寿命は絡んでくると思います。統廃合が決まっていれば、そこまでこの校舎はもつので、修繕の要否の判断は出てくると思います。

委員 今の説明だと統廃合が先ですね。学校規模適正化を絡ませるかどうかによってこの業務は大きく変わると思います。学校規模適正化を絡ませず、学校規模適正化を別途本市で考えた上で、整理し直すということですか。この中で学校規模適正化までを絡ませたものは市の決断が反映されないのではないですか。相手方は決めようと思えば機械的に決められると思います。

担当課 学校規模適正化は施設も判断材料ではありますが、他の事情も含まないといけませんので、この統廃合のことについては長寿命化計画に少なくとも記述する必要があると思います。しかし、この業務において、学校規模適正化計画を立てるところまでは考えていないです。あくまで学校規模適正化を考える上での参考データとして考えています。

委員長 そうなると、この案件をプロポーザル方式で実施する理由は修繕の優先順位というところにあるのですか。

委員 長寿命化計画だけならば、機械的なものであり、プロポーザルにする理由がない気がします。

委員 確かに、仕様書が固まっていれば、価格勝負という気もしますが、一方でそこで、学校規模適正化をどのように盛り込むかといった要素も踏まえた中で成果品

をあげてもらおうのが、今回のプロポーザルの趣旨だと思います。

委員 学校規模適正化計画は政策的なものだから、それが策定されていない中で、長寿命化計画に絡ませて、この業務の中でそこまで考えるのは中々難しいと思います。

担当課 学校規模適正化計画は、本来はこの長寿命化策定業務の主たるものではありませんが、漠然としていますが、それを加味したいろいろな提案をもらいたいと考えています。

委員長 例えばその審査委員会で、業者が何をプレゼンしたらよいのですか。

担当課 長寿命化計画自体の方針、奈良市の現状等を踏まえた上で、計画策定の注力すべきポイント等です。市の財政状況も加味しながら、延べ何年間で実施するのか、これまでの修繕も含めたトータルとそれを平準化する計画の提案もあると思います。他市の例ですと一般競争入札で行った場合、学校の状況を調べるだけですと多くの業者ができますが、全体の計画の立案ができない業者も多いので、失敗しているという例も聞いております。トータルでそういった総合的なものを示してもらいながら実施するのが一番良いと思って提案させていただきました。

委員長 今の話の部分だけだと、業者も非常にわかりやすいので、確かに。

委員 実際、長寿命化計画を考えた時に、それが一番大きな問題ですね。長寿命化工事をしてところが、廃校になっては、ものすごく無駄になる。

委員長 求めている内容は大体わかりました。業者にとっては難しいなと思います。機械的に何か決まっているわけでないので。プロポーザルに適しているかどうかという点で、長寿命化・修繕だけでなく、その全体的な部分についても、提案してもらおう部分がある。どういう形でやるか、学校規模適正化と長寿命化との組合せの考え方、奈良市の現状とか、地域の現状等を総合的に把握して提案できる能力が必要ということなのですね。それでは、本業務については、プロポーザル方式の実施を採用するという事よろしいでしょうか。

委員 はい、よいと思います。

委員長 本業務はプロポーザル方式の採用を決定したいと思います。

事務局 本日はこれでプロポーザル方式採否委員会を終了いたします。

【資料1】「奈良市学校施設長寿命化計画策定業務委託」に係る公募型プロポーザル方式実施要項

【資料2】プロポーザルの実施に向けたスケジュール（予定）
奈良市学校施設長寿命化計画策定業務委託